

個別最適な学びと協働的な学び

上智大学 奈須正裕



2017年版学習指導要領と「令和の日本型学校教育」

- 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（2021年1月26日 中央教育審議会）
- 学習指導要領の着実な実施のために必要な条件整備
- 改訂作業の途上で生じた様々な変化への対応の必要性
 - 1) GIGAスクール構想に伴う一人一台端末
 - 2) Society5.0
 - 3) 経済産業省「未来の教室」ビジョンへの返答
 - 4) コロナショックに伴って明らかとなった学校の役割と脆弱性
 - 5) 子どもの多様性に対するより手厚い対応 etc.



正解主義と同調圧力を克服する（令和の日本型学校教育）

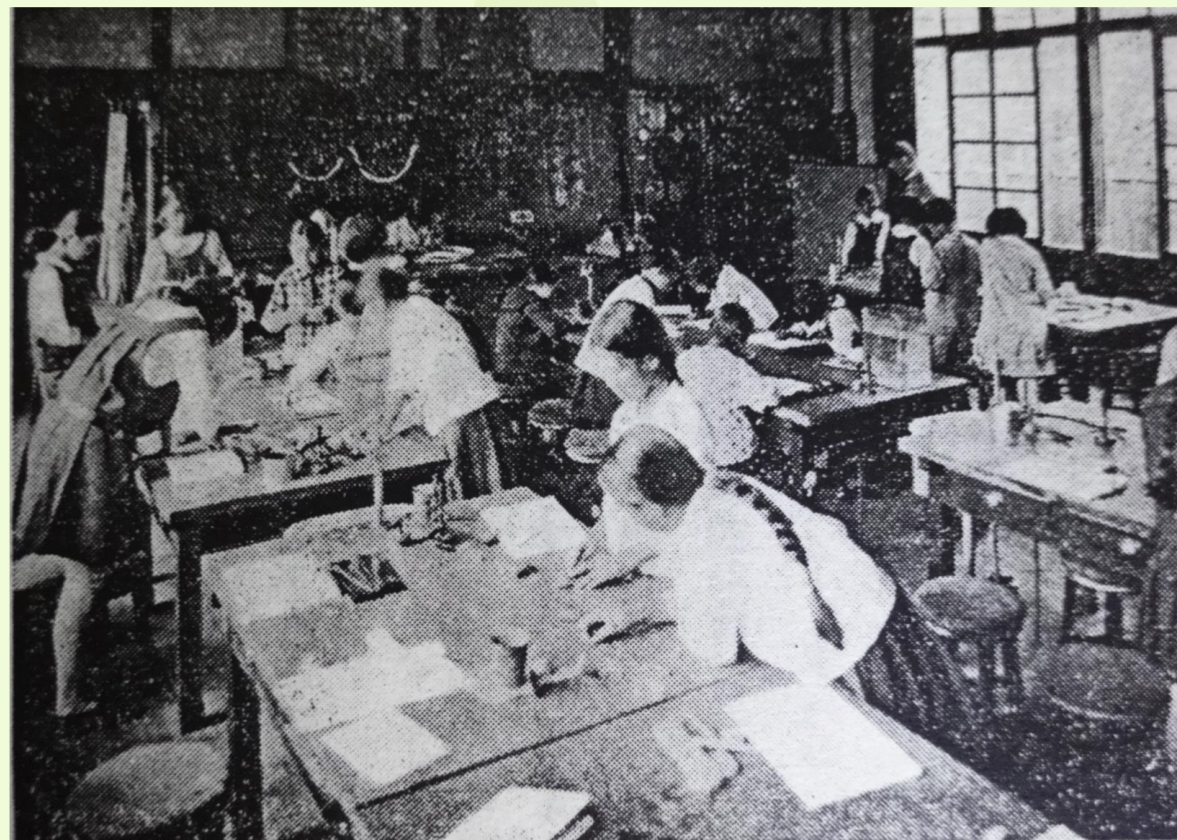
- 『みんなと同じことができる』『言われたことを言われたとおりにできる』上質で均質な労働者の育成が高度経済成長期までの社会の要請として学校教育に求められてきた中で、『**正解（知識）の暗記**』の比重が大きくなり（８頁）
- 学校では『みんなと同じことを同じように』を過度に要求する面が見られ、学校生活においても『**同調圧力**』を感じる子供が増えていった（８頁）
- 学校の臨時休業中、子供たちは、学校や教師からの指示・発信がないと、『何をして良いか分からず』学びを止めてしまうという実態が見られたことから、これまでの学校教育では、**自立した学習者**を十分育てられていなかったのではないかという指摘もある（13頁）



100年前に世界各地で誕生した個別最適な学びの源流



ドルトンプラン(1920年代)



奈良女子高等師範学校附属小学校
「独自学習」(1920年代)



100年前に実践されていた個別最適な学びと協働的な学びの往還 奈良女子高等師範学校附属小学校(1920年代)

「独自学習」(個別最適な学び)



「相互学習」(協働的な学び)



奈良の学習法（奈良女子大学附属小学校）

- 「授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元する」（答申、19頁）
- まず思い浮かぶのは「奈良の学習法」・・・木下竹次『学習原論』 1923（大正12）年
- 独自学習→相互学習→独自学習 が基本的な学習過程
- 学び合いといっても、個の学びが充実していなければ深まらない
- その場でいきなり問われても、思いつきや当てずっぽうしか出ない
- 個の学びが充実する（孤独の味：重松鷹泰）と、仲間の考えが聞きたくなる
- 「話し合い」ではなく「聞き合い」の授業



「協働的な学び」・・・正解→最適解・納得解

- 「『協働的な学び』においては、**集団の中で個が埋没**してしまうことがないよう、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげ、子供一人一人のよい点や可能性を生かすことで、**異なる考え方が組み合わせ**り、**よりよい学びを生み出していく**ようにすることが大切である」（18頁）
- 「正解」をみんなで協力して言い当てにいくような授業は、協働的な学びではない！
- 「いわれちゃった～」とがっかりするような授業は、競争的な学び！



すべての子どもは幸せになる権利を有している

- 教室における子どもの多様性は、いよいよ高まっている
- 基本的人権としての発達権・学習権の十全な保障
- 子どもがうまく学べないのは、子どもの側に問題があるのではなく、カリキュラムや学習環境の側に問題＝改善の余地があると考えるべきではないか：Universal Design for Learning という思想



どのような子どもの多様性が問題になっているのか

- 発達障害の可能性のある子ども 7.7%
- 不登校の子ども 1.0%（令和4年度統計では1.7%、中学校は6%）
- 不登校傾向の子ども 11.8%
- 経済的に困難を抱える子ども（家にある本が少ない 29.8%）
- 海外にルーツをもつ子ども（家で日本語をあまり話さない 2.9%）
- 特定分野に特異な才能をもつ子ども 2.3%

内閣府総合科学技術イノベーション会議 Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ より
(chromeextension://efaidnbmninnibpcjpcglclefindmkaj/https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/saishu_print.pdf)

- これらの子どもに可能な限りのサポートを行うのは社会の義務
- しかし、多様性はこれらの子どもたちだけの問題ではない
- 「特に困ってない」「何とかやれている」とされる子どもにも多様性はある



単元レベルで学びを一人ひとりの子どもに委ねてみる



奈須正裕『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社、2022年



愛知県東浦町立緒川小学校(1980年代)



教科書を時間軸から解き放ち、空間的に表現する



点を結んで



棒を使って



色板を組み合わせせて

1年生：図形の構成



幼児教育ではごく普通に実践されている



有能な学び手という子ども観に立ち、環境
による教育を主要な方法としてきたから



学習環境との関わりで自立的に学ぶ(6年社会科)



徹底した情報開示：単元指導案を子どもに手渡す

何を、なぜ、どのように学ぶのかを明確にする

6年理科 自由進度学習「てこのはたらき」
ガイダンスプリント

6年 組 名前

「疑問」その1

たかしくんとよしこちゃんのシーソー

見た目はふつうらしいけど意外に軽い(体重30kg)、気の強い「よしこちゃん」。

見た目は細いけど意外と重い(体重70kg)、気の弱い「たかしくん」。

二人はいつも仲良しで、今日もシーソーに乗りました。

すると、よしこちゃんは

「ちょっと、アンタ、そんなとこに座ってたらつりあわないでしょ！」

少しは考えてすわりなさいよ！！」

と、たかしくんに言いました。それを聞いたたかしくん

はおろろするばかり。

「どこにすわったらいいの？わかんない」と、今にも泣き出しそうです。

さて、たかしくんはどこに座ったらいいでしょう。



「疑問」その2

くぎ抜きのひみつ

「くぎ抜き」を使ったことある人いるよね。

どうして、こんなにかんたんに、くぎがぬけちゃうの？



「挑戦」

「さおばかり」を作ろう。

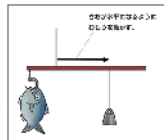
昔から、人々はものを売買するときに「はかり」を使

っていました。つりあいのきまりを利用した「さおばかり」

です。

竹内先生も「さおばかり」を作ってみました。

キミも、正確な「さおばかり」を作って、竹内先生と勝負しよう！



さあ、この学習を終えて、疑問や挑戦をクリアしよう！

・学習場所「第2理科室」

・持ち物

色鉛筆、はさみ、ファイル、教科書



自由進度学習 理科「てこのはたらき」学習のてびき

名前

目標

(時間 8 時間)

利用可能な時数

・ぼうが水平につり合うときのきまりを調べる。

・「てこ」や「てこ」を利用した道具について調べる。

★チェック 1 学習カード提出

・「さおばかり」か「てんびん」を作る。

★チェック 2 作品の提出

・「てこ」のはたらきについて分かる。

★チェック 3 チェックテスト

単元の目標と構成

評価＝チェックも
多様な方法で

学習の流れ

学習内容	教科書	学習カード	学習カード
① てこのはたらきについて調べる。	P72,73	学習カード1	学習カード1
② 力点や作用点の位置を変えると、どうなるかを調べる。	P74～75	学習カード2	学習カード2
③ てこ実験器で、どのようにすればつり合うかを調べ、つり合うときのきまりを考える。	P76～79	学習カード2	学習カード2
④ てこ実験器で、2カ所以上におもりをつり下げた場合について調べ、つり合うときのきまりを考える。		学習カード3	学習カード3
⑤ てこを利用した道具について調べる。	P80～83	学習カード4、5	学習カード4
★チェック 1 学習カード1～5を先生に見せる。			
⑥ 「さおばかり」か「てんびん」を作る。	P81, 84	学習カード6	
★チェック 2 作品と学習カード6を先生に見せる。			
⑦ チェックテストをやる。		チェックテスト	
★チェック 3 チェックテストを先生に見せる。			
~~~~~ ここまでは、かならず終りましょう。~~~~~			
発 ☆ 支点が、力点と作用点の間にない「てこ」のしくみを調べよう。			
展 ☆ たかしくんとよしこちゃんのシーソーの問題を解こう。			
学 ☆ 学校の中にある「てこを利用した道具」を3個以上見つけよう。			
習 ☆ 「もの作りカード」を参考にして、つりあいを利用した物を作ってみよう。			
☆ 「てんびん」や「てこ」についてパソコンで調べてまとめてみよう。			

学習の流れと利用  
可能な学習材等

活動的・体験的な  
学びも取り入れる

早く進んだ子ども  
向けの発展学習

竹内淑子『教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方』黎明書房、2019年



# 教える教育から環境を整える教育へ

- 全員の子どもが教師の目の前にいない：どうやって教えるの？
  - 適切な環境さえあれば、子どもは環境に関わり学んでいく
  - もう1つの教育方法としての「環境による教育」
  - 「教師が教える教育」に加えて「環境による教育」をレパートリーに
- 
- その基底にあるのは、すべての子どもは生まれながらにして「有能な学び手」という子ども理解
  - しかし、アナログでは膨大な紙の資料の準備など、イニシャル・コストの高さがネックになっていた・・・

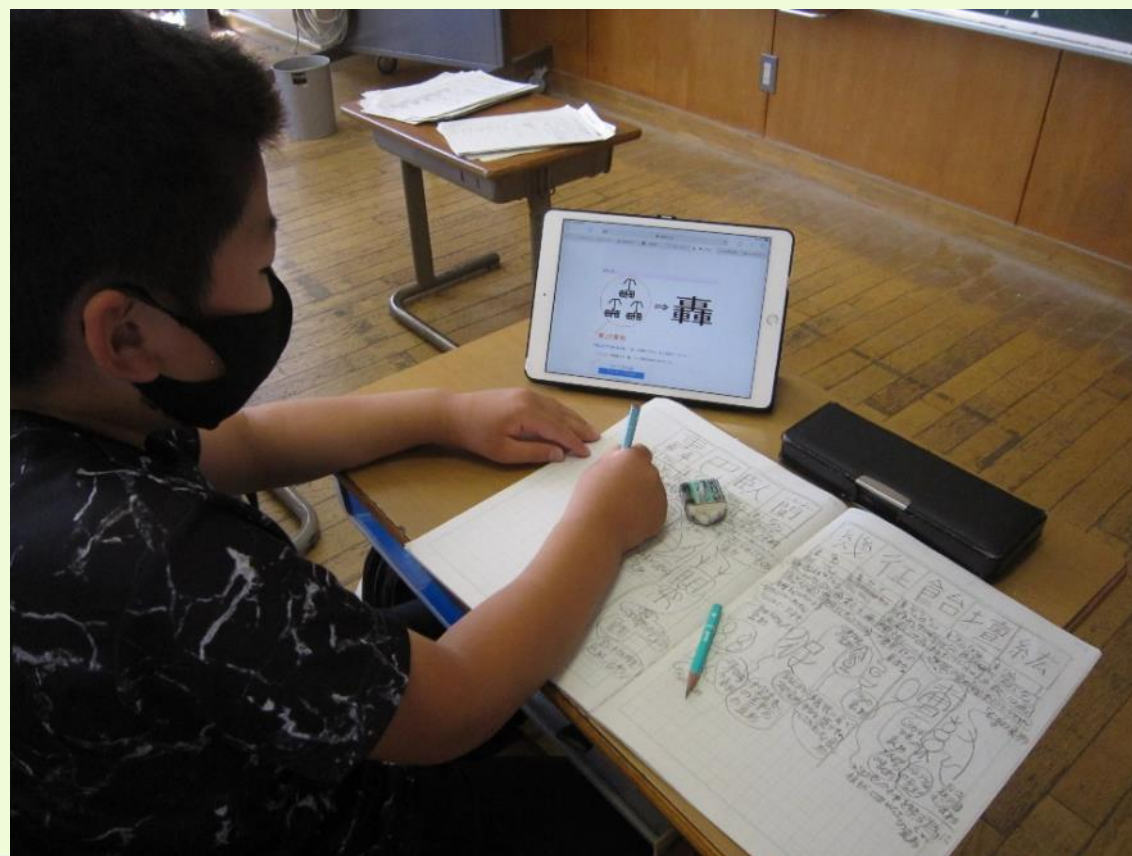


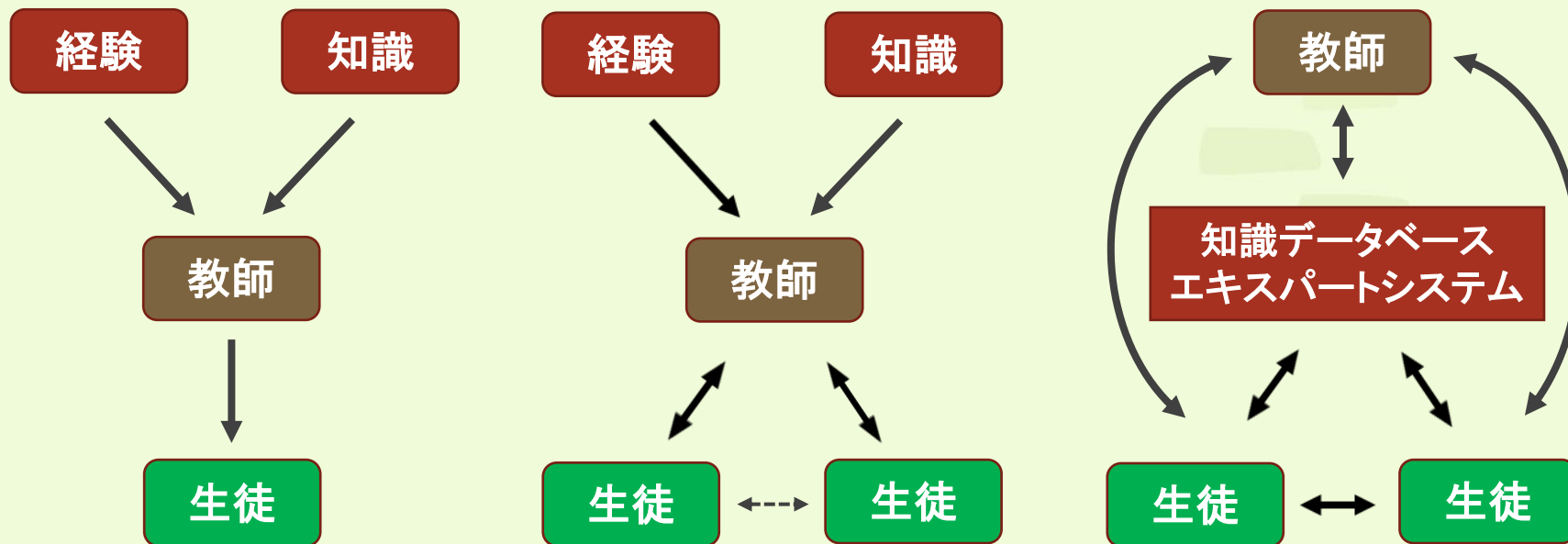
# GIGAスクール構想で可能性は飛躍的に拡大

大活躍するNHK for School



必要な情報を探し出し、課題に照らして  
しっかり考えて整理する





### 口頭継承パラダイム

口頭による教師の一方的な伝達

### 現在のパラダイム

情報の伝達者及びゲートキーパーとしての教師

### 情報技術パラダイム

知識データベース等に、生徒も教師も等しくアクセスできる

学校教育の過去・現在・未来のモデル (Branson, 1990)  
Robert K. Branson 1990 Issues in the Design of Schooling :  
Changing the Paradigm. *Educational Technology*, Vol.30, No.4, 7-10.



## 同期型と非同期型 × 対面と遠隔

	同期型 コミュニケーション	非同期型 コミュニケーション
対面	従来型の一斉指導	環境による教育 「情報技術パラダイム」
遠隔	オンライン授業など	オンデマンド授業など



# さらに、何をどう学ぶかも個別最適にする(個人総合)





さらに、授業も子どもたちに任せてみた





先生に対する遠慮や忖度なく、  
本音でぶつかりあい、共に学ぶ子どもたち



# 子ども観の転換と授業のパラダイムシフト

- 子どもは無能な怠け者：教師が仕切る教育  
→教師が教えなければ学ばない、学べない
- 教師の仕事は教授と管理  
→授業の前提としての規律訓練
- 子どもは有能な学び手：環境による教育  
→適切な環境と出合えば、自ら進んで学ぶ
- 教師の仕事は学習環境整備と足場架け  
→徹底した情報開示、見とりと支援



- まずは、ちょうど100年前に出た、木下竹二の「学習原論」（明治図書）をお読み下さい（学芸大の図書館にあります）
- 次に、40年前に出た、愛知県東浦町立緒川小学校「個性化教育へのアプローチ」（明治図書）にあたってみましょう（こちらも学芸大の図書館にあります）
- 単元内自由進度学習については、竹内淑子「新装版 教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方」（黎明書房）が参考になります
- 11月には、堀田先生にもご執筆いただいた新刊も出ます

